

韓国独自AI評価の衝撃：技術1位の脱落が示す「評価設計」の難しさと日本への示唆

2026年 韓国政府(MSIT)「独破模 (トッパモ)」第2次評価結果公開。技術ベンチマーク1位企業が、ユーザー評価低迷により総合最下位で脱落するという「評価の逆転」が発生。AI開発における性能と実用性のバランス、国家プロジェクトのあり方に議論。

逆転の構造：ベンチマーク1位が脱落した理由

技術性能 vs 実用・受容性の乖離

総合1位：SKT (70.6点)



評価軸の圧縮が生んだ「僅差の勝負」

技術1位：Motif (脱落) (65.8点)



技術格差が配点上圧縮され、上位3社の総合点差はわずか1.6点の僅差となった。
ベンチマーク1位のMotif社が、ユーザー評価でSKTに5.0点の差をつけられ逆転脱落。

日本への示唆：日韓の制度設計比較

韓国（選別・競争）



資源集中への政策転換：
韓国政府は分散型の限界を認め、2027年以降は数兆ウォン規模の資源集中投下へ再編を表明。

ムービングターゲット方式のリスク：
段階ごとに評価基準を変える方式は、開発の柔軟性を生む一方、透明性と予見可能性を損なう。

日本（広く薄く）

